

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190800017		
法人名	株式会社 平安		
事業所名	グループホームききょう		
所在地	岐阜県山県市東深瀬505-2		
自己評価作成日	令和6年10月7日	評価結果市町村受理日	令和7年1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2190800017-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2190800017-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和6年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が自分らしく自分のペースで生活ができる施設をスタッフはめざしています。環境の整備や暖かい雰囲気施設の施設づくりを行う事で利用者さまの尊厳を尊重し穏やかで安全、安心に快適に過ごしていただき、自分たちもここで生活したいと思えるような空間を作りだしていきます。季節感を感じていただけるようなイベントやご家族様、地域の方々のイベント参加、介護予防サロンの実施、登山等のアクティビティや学生ボランティアの募集など地域とのふれあいを大切に今後も運営して参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は幹線道路から少し中に入った位置にあるが、交通の便が良い地域にあり、田畑や山が窓から見渡せる自然環境豊かな地である。玄関には理念や目標等がしっかり掲示とされており、併せて施設案内や説明資料等を訪問者が自由に閲覧できるようにしている。地域交流を積極的に行い、祭りや介護予防サロン、介護相談など、行政と連携しながら積極的に取り組んでいる。周辺住民との関係も良好で、畑で採れた旬の野菜やスイカなどの差入れを受けることが多い。SNSで事業所の最新情報を発信したり、職員もITを積極的に活用し、ビジネスチャットツールで連携しながら、日々のケアに活かしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念の他に今年目標を掲げ職員一同取り組んでいます。定期的なミーティングを実施し理念に沿った行動、姿勢、サービスの提供ができるように心がけています。	玄関に法人理念と合わせてホーム理念を掲示している。職員それぞれの支援目標を設定し、職員間で共有しながらサービスの向上に努めている。施設案内も、利用者や家族が自由に手に取って、閲覧出来るよう工夫している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	季節ごとにイベント等を開催し交流を図っています。今後も外出や地域との関わりを増やしていきたいです。	事業所が主催する祭りや駄菓子屋行事などを通じて、事業所への理解や地域の協力体制構築を目指している。また、介護相談や介護予防サロン等の実施で、地域との連携を図れるよう取り組んでいる。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3か月に1回様々な方に参加していただき、継続的に開催して地域の方々との意見交換に取り組んでいます。	運営推進会議を定期的で開催している。今年度より地域の業者にも声をかけ、参加を促している。これまでも薬局や居宅介護支援事業所などに声をかけている。多職種での意見交換をサービス向上につなげている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所健康介護課職員と定期的に面会や連絡を取り状況報告や情報共有を実施しています。	市の健康介護課職員と連携し、事業所の課題について、窓口での対面やメールで相談している。行政と連携しながら、地域住民向けの介護相談や介護予防サロンなどで協力関係を築いている。福祉避難所でもあり、防災部局との連携もある。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	前回のアドバイスを受け身体拘束委員会を立ち上げ話し合い、研修を行ったりしています。利用者様の日常の行動や動きなど職員間で共有し安全に過ごしてもらえるよう定期的にサービスの見直しを行うよう努めています。	身体拘束委員会を開催し、研修は外部講師を招きながら身体拘束をしないケアを実践している。日常生活の中で、出来る限り自由な暮らしを優先し外に出たい利用者の思いにも寄り添いながら、見守りで支援している。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記と同様、日常より常に注意喚起し虐待の防止に努めている。	身体拘束委員会と虐待防止委員会を同時に開催している。法人全体で支援を振り返り、日々の業務を見つめ直している。外部講師を招いて研修を実施し、職員の学ぶ機会としている。職員はビジネスチャットツールも活用しながら学んでいる。	ビジネスチャットツールを活用しながら、職員は議事録を共有している。議事録が身体拘束委員会と一緒にできており、それぞれの委員会の役割について整理し、議事録は個別記録とし、明確化される事を期待したい。

岐阜県 グループホームききょう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて日常生活支援や成年後見制度について学んでいる。利用者個々の尊厳を大切にできるよう職員で共有している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設入所前にケアマネジャー、フロアリーダーと面談を行い利用者、家族の不安や疑問点、要望等を伺い施設内や料金等の説明を行っている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	弊社の公式LINEアカウントやインスタグラムなどSNSサイトを開設し以前よりもご利用者様との繋がりを感じていただけのようになっていました。ホームページを通じての情報発信も行っています。	SNSを活用し、家族への情報発信を積極的に行っている。紙媒体の便りは配布していないが、家族から特段の意見表明はなく、概ね満足していると捉えている。SNSを使わない家族には、来訪時に意見や要望を聞いている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回ミーティングやモニタリングを行い各職員が意見を述べ問題提起し解決策を話し合い良いケアができるよう努めています。	朝礼や夕礼などのタイミングにおいて、管理者は、職員の意見や要望等を聞く機会を設けている。職員の意見や改善点等の提案について話し合い、支援に繋げている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	年2回の評価、賞与の制度と年1回に人事考課制度を用い職員1人1人がやりがいを持って働くことができる環境作りに努めています。また年2回全職員でのミーティングを行いスタッフ表彰式、経営方針の発表などを行っています。	人事考課制度を導入し、職員面談を実施している。職員一人ひとりが、やりがいを持って働けるよう話し合いながら職場環境作りに努めている。職員間の関係も良好で、休日・有給・病休など、取得し易く、外国人労働者の雇用について、今後、考えていきたいとしている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護未経験の職員でも安心して働けるための教育制度や月1回の介護研修(外部講師)資格取得や法人外研修費の補助の制度を設けている	入職時には研修を実施している。入職後は年間研修計画に基づいて、学びの機会を設けている。外部からの研修情報は、ビジネスチャットツールで職員間で共有しながら学ぶ機会を提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設見学の機会を設けている。勉強会案内など全職員に配信し平等に参加できる機会を与えている。今回病院見学もあり、多職種の方の考えを聞くことが出来ました。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と向き合い、個性や今までの暮らしぶりなど聞き、自宅にいるような介護をいつも考えその人らしい生き方をさせていただけるように支援しています。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人一人時間をかけて昔話をしながらその人の人生観を感じ、よく観察しその人に合った支援を皆で共有し安心して生活してもらえるよう行っている。	利用者との会話が困難な場合は、表情などから意向を把握し支援に繋げている。利用者のニーズや、新しい情報については、カンファレンスなどを実施し職員間で共有しながら、本人本位の支援に繋げている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行った結果で皆で意見交換しケアについて再度検討し、介護計画を立てて、サービス提供に役立てている。	一人ひとりの思いを察知し、日頃の行動を観察の上、検討を重ねながら介護計画を作成している。理学療法士や看護師など幅広い専門職と共に話し合いながらケアプランを作成し、複数の目でモニタリング評価を行っている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日朝礼夕礼を開催し引継ぎを行う中でサービスの見直しを行う為、新たな気づきを共有するよう安心して一日過ごしてもらうようにしています。	介護支援ソフトを活用し、日々の利用者の様子を記録している。また、特別な変化がある時は職員間で話し合い、共有を図りながら、適切に記録及び支援を行い、介護計画に見直しに活かしている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様全員、サービスの提供内容が違うので一人一人に寄り添ったサービスを提供できるよう取り組んでいる。	利用者の希望や、それぞれの家族のニーズを把握し、柔軟な支援を行なえるよう取り組んでいる。今後、利用者の状態に応じた外出支援や買い物支援など、個々に寄り添った支援を増やせるよう検討している。	

岐阜県 グループホームききょう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護相談員の受け入れはまだしてないのですが、利用者様の安心安全にその人らしい生活が続けていけるよう支援したり他の施設の職員が相談したり話し相手を行うことで生活にメリハリをつけて楽しんで過ごしてもらえるよう努めています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に主治医の診察を受診し状態の把握をお願いしています。異状時は診察が適切に受けられるよう協力していただいています。本人やご家族にも安心されています。	入居時に説明を行い、本人・家族の意向において、かかりつけ医を選択している。専門科を受診の際は家族同行を依頼している。口腔ケアについては歯科医と連携を図りながら行っている。職員として、理学療法士、看護師の配置もある。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ケアマネジャーが病院の相談員と定期的に連絡を取り、利用者様の状態把握に努め、退院後も安心して生活出来るよう支援している	入院時は、利用者の情報を医療機関に口頭で伝えている。退院前カンファレンスには、ケアマネジャーが参加し、利用者が事業所において、退院後も安全に過ごすことができるよう、医療機関と連携しながら支援を行っている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前より家族から終末期、看取り期に関する意向を伺い、事業所での支援の方法、地域の医療機関や施設などでの支援も説明します。本人家族の意向をスタッフに共有しチームでの支援に取り組んでいます。	契約時に、重度化や終末期の支援について丁寧に説明している。事業所内で行える範囲などについても、家族に伝え共有を図っている。職員は、看取りにおける心構えなど、年1回、研修機会を通じて学んでいる。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡マニュアルを作成し緊急時に備えています。また、応急手当や救急要請時の対応について消防署に依頼し研修をおこないました。また、入所時に施設で対応できる看取りを理解していただき、本人・家族が話し合っただけの様取り組みを始めました。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の方を呼び避難訓練を定期的に行っており、いざという時に備えています。緊急連絡簿は全員に配布して速やかに連絡が取れるよう対応しています。	防災訓練は、隣接する同法人事業所と合同で行い、一番人手が多い昼間を想定した時間帯で実施している。BCP作成は完了しているが、職員間での共有は行えていないため、今後、行っていく予定である。	今後は、様々な災害及び時間帯を想定した避難訓練に期待したい。また、現状に見合ったBCPの整備・消防計画、備蓄品の量、地域の協力体制についても強化できるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日の生活の中で馴れ合いになることがないように利用者様の人格や尊厳を大切にしています。なるべく一人一人の利用者様に寄り添いながら、丁寧な対応をするように心掛けています。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、言葉かけや対応方法を考慮しながら支援している。入浴支援時の同性介助については、9名全員が女性であるが、男性が介助する場合もある。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人が希望や思いを伝えられる環境づくりを目指しています。利用者様の少しの変化に気づき、思ってみえる事があれば見つけ出し、職員間で話し合い希望に添えるよう働きかけ、自己決定ができるようにしています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の性格や生活スタイルに合わせ自分らしく自分のペースで生活が送れるよう支援しています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホットプレートなどを用意してで、利用者様が作る所から参加して楽しんで頂ける機会を設けています。食後テーブルを拭きやコップ拭きなど利用者様ができるお手伝いをしています。	近隣住民からの差し入れで、旬の食材等が届くことも多く、利用者の食事に活用している。利用者の高齢化に伴い、ともに調理をすることは困難であるが、おやつレクなどを通じて、お好み焼きやピザ作りなどを楽しんでいる。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食業者から栄養バランスのとれた食事が毎日届き利用者様に提供しています。季節の物や、利用者様の希望に添い職員が作ったり、一緒に作って食べていただく事もあります。水分補給はこまめに行い、夏場などは好きな時に自由にお茶を飲んで頂けるような工夫をしています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアはなるべく毎食後行っていただけるように、自立の方には声掛けを行っています。介助の必要な方は職員が介助しながら口腔内の清潔保持に努めています。	一人ひとりの状態や能力に合わせた口腔ケア支援を心がけている。食後に声掛けを行い、必要に応じて介助を行っている。歯科医師と連携を密にし、指導を仰ぎながら利用者の口腔内の清潔保持に取り組んでいる。	

岐阜県 グループホームききょう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレで座位保持できる方は皆さんトイレで排泄されます。排泄時間や状態を記録し、その方に合ったタイミングで声掛けやトイレ誘導を行っています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決まっていますが、落ち着いてゆっくり入浴をしていただけるよう、最小限のスタッフでコミュニケーションをとりながら入浴支援をしています。リフトも設置されており、その方に合った入浴方法で安全に入らせていただいています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠センサーを導入し睡眠の質の向上に努めています。タブレットで睡眠状態や、心拍数の確認ができ、そのデータをもとに他職種と連携しながら睡眠や排泄状況のアプローチを行っています。日中は利用者様に合った時間で体調に応じて休息して頂きます。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は薬剤師、看護師が行っており、服薬介助は介護スタッフがいきます。間違いがないよう、スタッフ同士でダブルチェックを行い、再度利用者様の前でも名前などの確認を行っています。新しい薬の服用が開始されたときは症状の変化など記録しスタッフが共有するようにしています。	薬剤情報は個別ファイルに整理し、どの職員であっても状況を確認することができる。投薬内容の変更時には、症状の変化を必ず記録し、薬剤師とも連携しながら全職員で共有している。服薬支援時には複数名の職員が、名前と薬の種類を必ず確認し、利用者が飲み込むまでをチェックしている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本を読む方、パズルに取り組む方、一人一人の利用者様が好きなこととして過ごしていただいています。また洗濯たたみなどのお手伝いもしていただき、役に立つ喜びも感じて頂けるよう支援しています。	利用者一人ひとりの行動や言動から、その人の好きなことや出来ること、趣味等を見出し、楽しみながら過ごせるよう工夫している。SNSなどを通じて、利用者が楽しんでいる様子を家族にも発信している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に一度地域の方もお誘いしてお祭りを開催しています。地域の方や子ども達、ご家族様と楽しい時間を過ごしていただけます。外出はご家族様とのお出かけや外食など希望があれば送迎のお手伝いをさせていただきます。	事業所の祭りを通じて、地域の子供たちや高齢者と交流できるよう工夫し、事業所への理解も得られるよう取り組んでいる。日頃から、散歩や外出支援時に、利用者を見守ってもらえるよう、イベント等で少しでも地域との繋がりを深めていけるよう取り組んでいる。	

岐阜県 グループホームききょう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族の希望に沿って買い物や移動販売でのお買い物をさせていただいています。ご本人に常にお金を持っていただくことは難しいですが、ご家族と外食に行ったり、買い物をしたりと楽しい時間を過ごしていただけるように必要に応じてサポートさせて頂きたいと思っています。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望があれば対応しています。ご家族様からラインでお孫さんなどの写真を送っていただけるようにしています。年賀状などは希望をお聞きして対応しています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よい空間で過ごしていただけるよう日中はカーテンを開け陽の光が入るようにしています。夜間は不快なく休んでいただけるよう小さな常夜灯を点けています。共有スペースにはスタッフと利用者様で作成した作品を展示し季節感を感じていただけるように工夫しています。	リビングの壁面には、季節に合わせた手作り作品が飾ってある。利用者同士で、いつでも好きなゲームなどを楽しめるようスペースも確保している。また、YouTubeをテレビで見ることができ、懐かしい演歌や様々な動画など、利用者が自由に楽しめるよう工夫している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士で楽しくコミュニケーションを取っていただけるよう座っていただく席は工夫しています。ゆっくりしたいときや静かに過ごしたい時は共有スペースの端にあるソファで過ごしていただけるようにしています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	木製の表札を入口に付け分かりやすいようにしています。十分な広さもあり希望があればご家族様にお泊まりいただくこともできます。ご家族の写真やプレゼントなどを飾り、心地よく過ごして頂けるよう工夫しています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりを設置し安全に移動できるようにしています。共有スペースでは座っていただく場所を工夫し、車いすや歩行器でも利用者様同士が接触することなく安全に自由に移動できるようにしています。		